

ルールに挑戦③ 解答

問1 (×)

テーブルの上面を「プレーイングサーフェス」といい、長さ274cm、幅152.5cm、床高76cmの水平面にあり、「プレーイングサーフェス」は側面(サイド)を含むものとする。

* 「プレーイングサーフェス」は側面(サイド)を含まない。

問2 (○)

ネットの高さと支柱のサイドライン外側の長さは、15.25cm×15.25cmとする。

* 問題文のとおり。

問3 (○)

競技領域は長さ14m、幅7m、高さ5m以上なければならない。照度はプレーイングサーフェス全面にわたって1,000ルクス以上、その他の部分は500ルクス以上なくてはならない。

* 問題文のとおり。

問4 (×)

接着剤は、有害な揮発性溶剤を含まれてはいけませんが、ラバークリーナーは使用してもよい。

* ラバークリーナーも有害な揮発性溶剤を含まれてはいけません。

問5 (×)

試合前に主審がラケット検査をすれば、競技者同士相手のラケットを調べる機会を与えなくともよい。

* 競技者同士相手のラケットを調べる機会を与えなければならない。

問6 (○)

バックハンドで強打しようと、両手で持ったラケットでボールを打った。見事に決まった。ポイントは自分である。

* 問題文のとおり。(ラケットを保持している手がラケットハンドである)

問7 (×)

個人戦でユニフォームが大量の汗で濡れたため、ゲーム間の休憩時間に競技領域内で着替えをした。

* 競技者には、競技領域内や観客から見える場所では、いかなる着替えも許可してはならない。

問8 (○)

ボールが投げ上げられる動作の前に手から転げ落ちた。インプレーでないので相手のポイントにはならない。

* 問題文のとおり。

- 問9 (×)
より変化のあるサーブを打つため、投げ上げるときにボールにスピンをかけ打球した。
- * ボールに回転を与えてはいけない。
- 問10 (×)
ペンホルダーのラケットをシェークハンドのラケットのように持つ行為、またはその反対の行為もルール違反である。
- * 持ち方の制限はありません。
- 問11 (×)
相手が打球したボールにバックspinがかかり、自領コートに触れネットを超えて戻った。そのボールに触れようと相手コートまで行ってボールに触れリターンし、相手はそれをミスしたが、自分のコート側まで来たことがルール違反と言ってきた。
- * プレーイングサーフェスを動かしたり、ネットアセンブリに触れたりしなければ失点とはなりません。
- 問12 (○)
競技中にボールが破損した場合はレットとなる。
- * 問題文のとおり。
- 問13 (○)
エッジに触れたか、サイドに触れたかを決定する必要がある場合は、ボールがプレーイングサーフェスの上を飛んできた場合は正しいリターン、プレーイングサーフェスの下から打たれた上昇中のボールはほとんどサイドである。
- * 問題文のとおり。
- 問14 (○)
競技者は通常、試合を通して主審の監視下で、競技領域の3 m以内にとどまらなければならない。
- * 問題文のとおり。
- 問15 (×)
ラリー中に一方の靴が脱げてしまったので、タイムをかけてラリーを中断し、レットの申し入れをした。
- * 自己責任の範囲であり、ラリーを中断することはできません。
- 問16 (×)
A選手は右手にラケットを持っていたが左手の肘をテーブルについて打球した。
B選手がミスをし、A選手が肘をついたのでB選手のポイントである。
- * フリーハンドがプレーイングサーフェスに触れた場合は失点であるが、フリーアームなので失点とはならない。
- 問17 (×)
コート内に靴の裏を拭くぞうきんを持ち込めるのは主審の許可があればよい。
- * 審判長の許可が必要。

問18 (×)

カウント器に、次に表示するスコアカードがない場合は、両方の競技者のポイントスコアを0-0に表示する。

*両方の競技者のポイントスコアから10ポイントを引いたスコアを表示する。

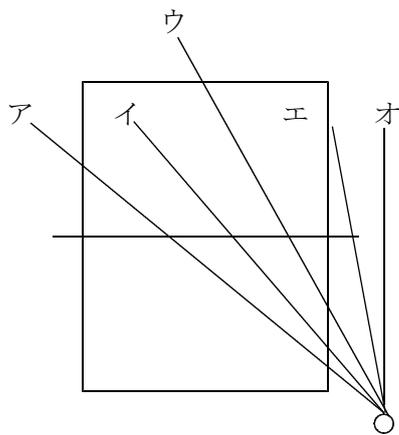
問19 (○)

トス(ジャンケン)は、勝ち側、負け側どちらにも選択権がある。

*問題文のとおり。

問20 (C)

○からア～オの方向に飛んできました。オブストラクション(進路妨害)となるのは？



- a アとエ
- b ウとオ
- c イとエ
- d アとイ

*インプレーのボールがプレーイングサーフェスの上方あるいは、向かって飛んでいるボールが競技者自身あるいは、着用または所持しているものに触れた場合はオブストラクションとなる。